

25年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 6月20日～ 7月10日

2. 調査実施方法

全国の製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は22社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight.D.I.

品目		25/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	7.1	3.6	10.7
	ヒノキ	40.9	18.2	36.4
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	50.0	25.0
消費動向	スギ	28.6	25.0	42.9
	ヒノキ	9.1	9.1	36.4
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	0.0	17.9	7.1
	ヒノキ	31.8	22.7	18.2
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	50.0	50.0

入荷は、スギは7月の増加から8月の減少を経て9月は増加に、ヒノキは7,8月の減少が9月には大きな増加に、カラマツは横ばいで推移、トドマツは7月の横ばいから8,9月減少に。
消費はスギ及びトドマツはプラス基調で推移、ヒノキは7月、8月のプラスが9月は大きく増加に、カラマツは7月の増加が9月に向け横ばいに。
在庫はスギは7月の増加が8月、9月には減少へ、ヒノキは7月、8月の減少から9月に向け増加、カラマツは7月のマイナスから8,9月は横ばいに、トドマツは7月の横ばいが8,9月は減少に。

(2) 製材原木価格動向 Weight.D.I.

品目	25/7月	8月	9月
スギ	16.7	16.7	33.3
ヒノキ	22.2	25.0	35.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギは7月のマイナスが8、9月に向けプラスに、ヒノキはプラス基調で推移、カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・梅雨入りで出材減、虫害避け買い入れ抑制気味。・虫害のため出材品質低下。仕入れ減少分消費マイナス。・入荷は、スギ出材増も、虫害、割れの恐れ有り当用買い、ヒノキ出材減、製品荷動き比較的良くなり価格急騰で必要量のみ仕入れ。消費はスギ順調に出材のため主体に製材、ヒノキは半製品在庫比較的多く出荷少ないため製材量自ずと減。・十勝のカラマツ原料需要に対し供給少ないが合板向け想定以下で何とか凌いでいる。ここ数年間伐先行で小径材極端に不足。消費は今月までパレット需要に支えられたが翌月以降見通しはっきりせず。産業向けは空洞化進み需要総量が減少。建築用も一服感。物件あるも人的資源不足し予定どおり進まないと予想。在庫増となっており一時的価格軟化を心配。・ヒノキの入荷は季節的に変色、虫害の心配から例年減少、消費は生産に比例、在庫は年間通じ安定するよう努力。・スギ、ヒノキとも在庫高水準で必要最低限の手当継続、7~8月まで調整。生産は増量計画するも人員問題で大幅増とはならない。在庫調整継続し、減少。・入荷はヒノキ減少、スギ変わらず、消費はともに横ばい。・梅雨で一時入荷落ち着いたがすぐ回復と予想、工場稼働、消費に変化なし、在庫は虫害の時期で減らすことが課題。・スギは梅雨明けで山仕事本格化、仕入れ例年並み。・スギ入荷は梅雨明けでやや増、消費も消費税、木材利用ポイントでやや増加。入荷は国有林請負本格化し素材生産業者は忙しそう、出材量が今年が多いとの声あり請負作業は長引くと予想。消費は木材利用ポイントの影響あってスギに引き合いあり再来月まで続きそう。在庫はこの時期原木材質も良くなく入荷は控えめ。国有林公売次第。・ヒノキの入荷は引き続き横ばい~少し減、6m材集めにくい。消費は引き続き安定販売見込め変動無く消費予定、6m材は集材次第。在庫は傷みの時期で減らす方向で計画(今年は虫害少ない)。・スギは入荷多く荷もたれ感。梅雨明け後の天候の安定具合により徐々に入荷増を予想、消費も天候に併せ増加していくと考える。・スギ、ヒノキは市場価格下落で入荷量減、7月からの国有林材で補う予定も、量確保が困難。常に100%稼働のため消費量は変わらない、9月は残業で多少増加するかも。・入荷は、7月はほぼ横ばい、8月以降天候よくなれば増加傾向。消費も8月益明け以降製品動きだし生産量も上がると予想。

(原木価格)・この状態で下落はおかしい。・供給量の関係で当面下落後、やや上昇。・荷傷み懸念と供給量増からスギは弱含み、ヒノキ供給減と荷動き次第に良くなり高騰気味。・トドマツは上昇懸念あったが建築向け進まず一時的停滞感から変化なし。・ヒノキ並材主体で生産、特に買気見られず。・スギ、ヒノキとも7,8月出材減で強基調だが目立った価格アップまでは行かず、9月以降需要顕在化により少し値戻しと予想。・一時的に原木供給少なくなったが虫害の恐れから思うほど上がらず。・スギ乾燥材のみの生産で、原木単価やや上昇に留まる。先月同様変動なし。国有林公売次第。・単価は先月末~今月前半上昇したが、少し戻ってきた。6m材不足感あり高値推移。・製品に比べ動き鈍く価格低迷。秋に向け良材が入荷し始め、各業者の本格仕入れにより価格は上昇と予想。・7月は梅雨のため出材減少し価格やや上昇。

25年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
生産動向	スギ	25.0	14.3	32.1
	ヒノキ	9.1	4.5	18.2
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	50.0	50.0
出荷動向	スギ	39.3	30.8	50.0
	ヒノキ	11.1	6.3	25.0
	カラマツ			
	トドマツ	0.0	50.0	50.0
在庫動向	スギ	3.8	11.5	19.2
	ヒノキ	18.2	18.2	13.6
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	75.0	75.0	75.0

生産はスギ及びトドマツはプラス基調で推移、ヒノキは7月のマイナスから9月にはプラスに、カラマツは7月のプラスから8,9月はゼロに。出荷はスギはプラス基調で推移、ヒノキは7月のマイナスから9月に向けプラスに、トドマツは7月のゼロから8,9月はプラスに。在庫はスギは7月の小さなプラスから9月に向けマイナスに、ヒノキ及びトドマツはマイナス基調で推移、カラマツは7月のゼロから8,9月マイナスに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	10.7	3.6	21.4
	柱角 KD12×3	7.1	7.1	21.4
	通し柱 12×6	18.2	13.6	18.2
	桁角	0.0	8.3	12.5
	母屋角	4.5	13.6	18.2
	タルキ	5.0	15.0	15.0
	間柱	21.4	14.3	17.9
	ヌキ	9.1	13.6	13.6
	平割	4.5	13.6	13.6
	ラミナ	20.0	30.0	30.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	9.1	13.6
柱角 KD12×3		0.0	9.1	18.2
土台角 10.5×4		13.6	13.6	18.2
土台角 12×4		11.1	5.6	16.7
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4				
" 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
" ラミナ	50.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ				

スギは柱角、通し柱、桁、母屋、タルキ、間柱、ヌキ、平割及びラミナともに保合ないしやや強保合で推移。ヒノキは柱角及び土台とも保合ないしやや強保合で推移、通し柱及びラミナはともに横ばいで推移。カラマツ梱包材は横ばい、ラミナは7月プラスが9月に向けゼロに。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)・出荷は駆け込み需要が大手住宅メーカー中心に旺盛な買い付け。在庫はこの時期としては少ない。・直売を少しづつ増やしている。・スギ、ヒノキとも比較的順調。全国的にスギ丸太供給過剰で今後製品もダブつく可能性。在庫はスギ丸太増のため在庫の余裕、ヒノキはかなり減少。・カラマツの生産は7月までパレット需要に支えられたが8月夏休み、定修で例年納材停滞し落ち込むと予想。ラミナ例年より順調でこちらにウエイトを置く予定。トドマツは羽柄材中心に輸入材に対し一定の割安感出した設定で安定シェア確保のため営業中。・生産はプレカット工場忙しそうだがヒノキ柱は例年通り安定した動き、出荷も同様、在庫はB材の動き良くB材在庫減少。・スギ、ヒノキとも一般物件目立った動きなく安定した生産、出荷も一般物件向きは大きく上昇という気配ないが、ハウスメーカー向けは前年比アップで推移。在庫は生産分、出荷しており低位安定横ばい。・原木減少により生産調整の可能性。・生産計画変更なし、荷動き良いとは思わないが順調に推移、小幅板等副製品の売りづらさ変わらず。スギ、ヒノキとも関東向け出荷堅調も、関西向け勢いが無い。・消費税がらみで徐々に発注増加し生産体制強化、乾燥材の発注のみのため乾燥能力以上は増えず。・スギは生産、出荷とも生産量調整で横ばい。乾燥能力に限界。県内外からの注文が増加残業で対応、出荷順調、在庫も増。出荷は関東からの引き合い強くなってきた。在庫は生産後即出荷続く。・ヒノキ生産状況は販売状況見ながら、荷動き先月と変わらず、羽柄材荷動き悪い。在庫は構造材は春以降安定、羽柄材は特定サイズのみ流通し一部停滞感。在庫は仕掛品含め1.3カ月程度でコントロール。・駆け込み需要で生産・出荷順調、特に柱、間柱不足気味。・市況見ながら生産維持。スギ、ヒノキは円安、木材利用ポイント等追い風あるが、実需はお盆前に向け一段落しており荷動き一時的に停滞する見通し。・9月は出荷増える。

(製材品出荷価格動向)・為替の影響によるW等競合品値上がりで価格上昇気味。ラミナは上がらない。ヒノキ土台は売れ行き良好。・スギKD柱角は供給過多で当面やや下落、その他スギ製材品は落ち着いてきている。・スギ10.5KD輸入材、集材相場上昇一段落で今後弱含みか、12KDは前者より強気、通し柱順調、桁角、母屋角は受注生産で変動少ない、間柱順調な荷動きで先行きは円相場次第、ヌキ、平割りは変化なし。ヒノキ製材品は丸太価格高騰で安い品少なくなった。・カラマツはラミナ若干値上げ、梱包、パレットは横ばい。トドマツ羽柄材も秋口までは現行価格と見込む。・ヒノキ製材品の価格変動なし。・スギは踊り場、需要次第で変動、個人的には下げの可能性、ヒノキは大きな変動ないと予想。・製品の不足感あるが価格上昇までは行かず。先月と同価格、全体的にやや上昇。・ヒノキ製材品は今のところ安定的に推移。

25年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	100.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太			
	北洋アカマツ丸太			
	北洋アカマツ原板			
消費動向	米マツ丸太	25.0	25.0	25.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太			
	北洋アカマツ丸太			
	北洋アカマツ原板			
在庫動向	米マツ丸太	25.0	25.0	25.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太			
	北洋アカマツ丸太			
	北洋アカマツ原板			

仕入は、米マツ丸太は7月の減少が8,9月は横ばいに、NZ材は7,8月の減少が9月に向け横ばいに。
消費は、米マツは7月の増加が8月の減少を経て9月には増加に、NZ材は7,8月の減少が9月には横ばいに。
在庫は、米マツ丸太は7月の減少が8月の増加を経て9月には再び減少に、NZ在は横ばいで推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/7月	8月	9月
米マツ丸太	25.0	50.0	25.0
NZラジアータ丸太	100.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太			
北洋アカマツ丸太			
北洋アカマツ原板			

米マツ丸太は7,8月のマイナスから9月にはプラスに、NZ材は7月のプラスから8,9月にはゼロに。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・米マツは今月本船入港予定なし。
・NZ材は円安にかかわらず更に需要減、販売単価維持のため更なる減産必要、入荷量減らしていたので横ばい。

(原木価格動向) ・NZ材は市場最高値の丸太、今後も横ばい推移と予想。

25年7月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight.D.I.

品目		25/7月	8月	9月
生産動向	米マツ製材品	25.0	0.0	25.0
	NZラジアータ製材品	25.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品			
	北洋アカマツ製材品			
出荷動向	米マツ製材品	25.0	25.0	50.0
	NZラジアータ製材品	100.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品			
	北洋アカマツ製材品			
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	25.0
	NZラジアータ製材品	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品			
	北洋アカマツ製材品			

生産は米マツ製材品は7月増加から8月の横ばいを経て9月には減少に、NZ材製材品は7,8月の減少から9月には増加に。
 出荷は米マツ製材品は7月の増加が8月の減少を経て9月には減少に、NZ材製材品は7,8月の減少が9月には横ばいに。
 在庫は米マツ製材品は7,8月の横ばいから9月は減少に、NZ材製材品は7月の増加から8,9月は横ばいに。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight.D.I.

品目		25/7月	8月	9月
米マツ平角		25.0	0.0	0.0
米マツ正角		25.0	0.0	0.0
米マツ小割		25.0	0.0	25.0
北洋エゾマツタルキ				
北洋アカマツタルキ				
NZ 梱包材(割板)		50.0	0.0	0.0
NZ 梱包材(割角)		50.0	0.0	0.0
NZ 土木用材		50.0	0.0	0.0
その他				

米マツ平角、正角とも7月のプラスから8,9月横ばいに、小割は7月プラスが8月横ばいを経て9月プラスに。
 NZ材梱包材及び土木用材ともに7月マイナスが8,9月横ばいに。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)・NZ材は減産中、荷動き非常に悪い、在庫は多少増加も今後減産して在庫減を図る。

(製材品出荷価格動向)

・NZ材は、減産に耐えきれず値下げで拡販図る業者も、損益分岐点に向けた値上げ途中での値下げ!?. 秋以降の需要を切望。